

Meijo Global Festa 2016 について

2016.06.28 Tuesday16:42

「Meijo Global Festa 2016」

11月19日（土）開催！ ドーム前キャンパスにて



11月19日(土)名城大学ドーム前キャンパスにて、中部地区のSGH指定校及びアソシエイト校生徒対象にMeijo Global Festa 2016を開催します。

本企画は、フォーラム(討論)部門とプレゼンテーション(研究発表)部門で構

成され、

フォーラムでは参加校の生徒・教員が有識者とともに社会課題に関して議論し、理解を深めます。プレゼンテーションは各校からの口頭発表とポスター発表を通じて研究を深めます。

急速に変化するグローバル社会に生きる一市民に求められる要素として、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、課題発見解決能力等があげられます。

本企画は、有識者の助言をもとに、探究活動を実施している各県の高校生同士が協働して多面的・複合的に

課題を捉え、それらを発表し、互いに議論しあうことを通じて、地域発のグローバル・リーダーとしての成長を即すことを目的とします。

フィールドワーク: 矢田・庄内川をきれいにする会

2016.06.21 Tuesday12:58

6月11日（土）、課題研究のフィールドワークとして、「企業活動と環境問題」について課題研究活動を行っている国際クラス3年生の生徒1名が本校で「矢田・庄内川をきれいにする会」の間野さんから話を伺いました。

庄内川流域における産業と環境保全



きれいにする会は、40年前から庄内川の水質を向上させるべく活動している団体組織です。

川の汚染は産業と深く関わりがあり、長年話し合いが行われていますが、川の浄化に向けてはまだまだ働きかけが必要だということがわかりました。環境と産業を両立させることの難しさ、これからの対応策などについて知ることができました。(国際クラス3年 M)

フィールドワーク: イニシアチブ Nippon「地域意見交換会」

2016.06.17 Friday 10:27

平成28年6月12日、課題研究のフィールドワークとして、3年生4名が、一般財団法人未来を創る財団主催の定住外国人に関する「地域意見交換会」に参加しました。該当の生徒たちは、「多文化共生」「外国人労働者の問題」に関するテーマについてそれぞれ研究を進めています。この意見交換会では、行政・企業・アカデミー・NPOと様々な立場の参加者の皆さんの、それぞれの取り組みや現状、課題について伺うことができました。

定住外国人の受け入れに関わる企業、NPO 団体の取り組みを知る



現在日本では人口減少が進み外国人の受け入れが増加すると予想されています。その中で外国人を受け入れるためのシステムをどう構築していくのかを考察するための地域意見交流会が行われました。そこでは行政、企業、大学、NPO 団体などの外国人の受け入れに関わっている方々が集まりました。実際に取り組みとして行っていることや、参加者のそれぞれの立場から考える現在の課題、今後のニーズなどを

伺うことができました。(国際クラス3年 M)

多文化共生:国際理解教室

2016.06.17 Friday09:07

1年生国際クラス 32人の授業「多文化共生」にて、NPO TWOの松井様たちを講師にお招きし、「国際的な課題の構造を体験的に理解し、それぞれが世界に関わる意欲をもつ」ことを目的に、国際理解教室が実施されました。

第1回 (5月9日)

ガイダンス(国際理解って何だろう?)

- ・ペーパータワーを建てよう
- ・異文化を理解するために必要なこと



第2回 (5月16日)

世界の現状をつかむ

- ・地球の食卓

第3回 (5月23日)

世界の格差とわたしたちの生活のつながりを考える

- ・貿易ゲーム



第4回 (6月6日)

世界の具体的な課題を知る
・作って△(児童労働)

第5回 (6月13日)

世界とどうかかわっていくかを考える
・世界の課題に対してできること



緑風の会朗読会「愛知空襲を読む」参加(名城大学天白キャンパス)

2016.06.16 Thursday 21:51

平成28年6月15日(水)名城大学 経済学部 渋井康弘教授のお招きにより、国際クラス1年生32人が天白キャンパスにて行われた、緑風の会朗読会「愛知空襲を読む」に参加しました。戦争の悲惨な出来事を追体験するとともに、「ものづくり愛知」の成り立ちについて深く学ぶきっかけとなりました。

緑風の会の皆さんが戦争体験の手記を朗読してください、愛知空襲を追体験するという催しでした。自分たちの祖父母や曾祖父母にあたる年齢の方々による戦争体験の証言は、次第に直接聞くことが難しくなっています。このような形で臨場感ある朗読を聴き、生徒たちは戦争をぐっと身近なものとして感じられたようです。

渋井先生によるまとめ<三つの視点>

戦争体験の朗読を聴き、生徒たちは心動かされたようです。それだけにとどまらず、最後の渋井



先生によるまとめは生徒たちにとって貴重な学びとなりました。以下にレジュメからの引用を掲載します。

〈三つの視点〉

- 1 空襲の被害者：彼らの製造した兵器で攻撃された人たち、それによって愛する者を奪われて人たちから見れば加害者である→被害者が同時に加害者に。
- 2 戦後の愛知経済：軍事産業を平和産業へと転換した人々の努力の結果、「ものづくり愛知」として復活させた。戦争の機械を平和の機械へ！
- 3 「ものづくり愛知」は、担い手次第でまた「兵器づくり愛知」にもなりうる。

フィールドワーク:円頓寺商店街 松川屋道具店

2016. 06. 16 Thursday 12:17

円頓寺商店街の歴史を学ぶ

平成 28 年 6 月 6 日、課題探究のフィールドワークとして、国際クラス 3 年生 2 名が円頓寺商店街にある「松川屋道具店」を訪ねました。松川屋道具店は円頓寺に古くから店を構えており、店主の齊木様に円頓寺商店街の歴史を中心に「インバウンド観光」や「商店街の振興」について教えていただきました。

円頓寺商店街は江戸時代に徳川家康が清州から名古屋に城を移転したときにできた門前町の名残で今でも江戸時代から残る寺院などが多く点在しています。円頓寺商店街は、第二次世界大戦後に都市部の大型店に代わって幅広い世代に親しまれていました。

しかし、戦後復興が進み大型店が活気を取り戻し、客足が伸びない時期があったそうです。

一時、活気がなくなりかけた円頓寺ですが、最近ではアクセスの便利さや多様な商店の進出により若い世代や訪日外国人の客足が伸び、再び活気づいてきています。特に古くから残る寺院は訪日外国人に高い人気があるそうです。そのため、多くの寺院には英語表記があり、松川屋道具店では英語表記のマップを製作し、外国の方にも楽しんでもらえるような工夫をしているそうです。





フィールドワーク:大須商店街連盟

2016.06.16 Thursday09:25

平成 28 年 5 月 8 日、課題研究のフィールドワークとして国際クラス 3 年生 4 名が大須商店街連盟事務局に訪問させていただきました。該当の生徒たちはそれぞれ「インバウンドビジネス」をテーマを元に研究を進めており、当日は事務局の中野様にお話を伺いました。

商店街を盛り上げる企画とは

大須商店街では主に 2 つのことを重視し、商店街を盛り上げています。

1 つ目は『人と人の繋がり』です。そのため様々なイベントを開催しています。そのイベントを支えているのは大須ボランティアの皆様です。大須ボランティアは幅広い年代の方が参加し、その多くが『大須が好き』という理由で参加しているそうです。このボランティア活動は『人と人の繋がり』を広げる大きな活動の 1 つです。





2つ目は『+のことは積極的に取り入れること』です。月に何度か会議を開き、その中で出た良い案を積極的にイベントなどに取り入れることを行っているそうです。この取り組みで生まれたのが『無茶売り』と言われるイベントです。このイベントは各商店が売り方を工夫し、その面白さを競います。このイベントは赤字になることがほとんどだそうです。お客様に楽しんでもらい、大須の注目度をあげるという意味ではとても有益であるそうです。このようにたとえ赤字になったとしてもお客様に楽しんでもらうことを第1に考えることが商店街を盛り上げる秘訣だと思いました。(国際クラス3年 N)

フィールドワーク:一宮地場産業ファッションデザインセンター

2016.06.08 Wednesday 15:34

6月1日(水)、課題研究のフィールドワークとして国際クラス3年生2名が一宮地場産業ファッションデザインセンターを訪問しました。該当の生徒たちは「愛知県の伝統産業」をテーマに研究を進めており、事務局長の山田克博様から、織物産業の現状や現在行っているプログラムについてお話を伺い、多くの資料を使いながら丁寧にご回答いただきました。

——— 一宮市、織物産業の新たな戦略を知る

一宮地場産業ファッションデザインセンターでは、尾州地域の繊維産業のPR活動などを行っています。若い人向けには人気ブランドが集まるファッションショー、TOKYO GIRLS COLLECTION で人気ブランドとコラボレーションをした衣服を発表したりしました。「カワイイ」をテーマにした小物を作ったりしているそうです。これらの小物は、より多くの消費者が手に入りやすいように価格が安くなっています。また、尾州で作られた生地やそれを使用した製品に「尾州マーク」をつけ、一般の消費者にも尾州の繊維産業について知ってもらおう活動や、見本生地の残りなどを使って、商品にするという活動も行っているそうです。



これらの活動を通して、一宮市の繊維産業はいままでは取引がB to B(Business to Business)だったものをB to C(Business to Consumer)にも展開しようとする動きがあることを学びました。また、社会の変化に対応して年々新しい様々な取り組みをしていることがよくわかりました。まだ始めたばかりのものなど、これからの消費者の反応が楽しみだと思いました。取り組みを通しての新たな現状が見ることができました。(国際クラス3年 S・N)

フィールドワーク: 日本国際協力機構

2016. 06. 07 Tuesday 11:23

6月2日(木)、課題研究のフィールドワークとして国際クラス3年生6名と2年生2名が、JICE 中部支所に訪問させていただきました。該当の生徒たちはそれぞれ「外国人労働者」、「留学生」、「グローバル人材」といったキーワードから教育や支援をテーマに研究を進めており、当日は職員の方々に質問にお答えいただきました。

———開発途上国の人材育成支援を知る



現在 JICE が行っている 8 つの事業の内容と現状についてご説明いただきました。その中の一つである留学生受入支援の取り組みについてのお話などから、人材育成の重要性を学びました。

また、具体的な研修プログラムの説明を通して、海外進出を図る日本企業と研修生のマッチングの難しさや、JICE が日本企業と開発途上国からの研修生との人脈形成に貢献していることを知ることができました。

———外国人求職者への支援の現状を学ぶ

外国人求職者の安定した就労を目指す「外国人就労・定着支援研修」の実績や、研修内容、実施の背景などを伺いました。

研修の内容については、様々なコースに分かれた実施形態について教えていただいた他、ハローワークや労働局との連携についてもお話を伺いました。

また、外国人労働者への日本語教育の重要性や、キャリアモデルがない外国人求職者の実情について詳しく知ることができました。(国際クラス 3 年 1)

フィールドワーク:子ども食堂の現状

2016.06.07 Tuesday11:00

6月1日(水)、課題研究のフィールドワークとして国際クラス3年生2名で名古屋市北区にある「わいわい子ども食堂」に訪問させていただきました。当該生徒たちは「子どもの貧困」、「児童虐待」、「学習支援」といったテーマの研究を進めており、当日は「子ども食堂の現状や持続性」についてのお話をうかがいました。



——子ども食堂について知る

わいわい子ども食堂の運営者である杉崎さん伊藤さん水野さんにお話を伺いました。

子ども食堂は、月に一度、食事と居場所を地域の人々に安価な価格で提供するために開催されています。当日は32人の子どもたちが来ており、豚丼や野菜や果物の提供や歯磨き指導などが行われていました。子どもたちに多様な価値観を身につけてもらうために、大勢のサポーターの方もボランティアとして集まっており、様々な人の協力で成り立っていることがわかりました。しかし一方で、知名度が低いこと、資金が不足していることといった課題があることも認識しました。

(国際クラス3年生 N・H)

フィールドワーク: JICA

2016.06.02 Thursday14:05

5月27日(金) 16:30～、課題研究のフィールドワークとして国際クラス3年生5名がJICA中部に訪問させていただきました。該当の生徒たちはそれぞれ「BOPビジネス」、「技能実習制度」、「フェアトレード」といったテーマを元に研究を進めており、当日はテーマごとに専門の職員の方々に質問にお答えいただきました。

——BOP ビジネスの支援～“マッチング”の難しさ～

私たちは「BOPビジネスの支援」について、特に企業と現地のマッチングについて、企業連携担当の前島さんに伺いました。

具体的な資料を拝見させていただきながら、マッチングの流れや、その際にJICAさんがされていること、気をつけていってほしいことを伺う中で、いかに企業が海外でBOPビジネスを実行させることが難しいかということを感じ、深く知ることができました。

実際にBOPビジネスに関わっているからこそ見えてくるBOPビジネスの課題点や利点、BOPビ

ビジネスを行う上で乗り越えなければならない壁など、インターネットや書籍等の文献だけでは知ることのできない BOP ビジネスの現状を伺うことができました。(国際クラス3年 K・W)

——技能研修の受入形態を学ぶ

外国人の技能研修制度において、受入形態やその実績について、研修業務課の岩瀬さんからお話を伺い、様々な質問にも丁寧に教えていただきました。



更にお話は多岐に渡り、課題別研修で取り扱っている分野の案件、青年研修の期間の差、第三国研修で日本人を派遣する現在の状況、受け入れをしている国の状況と課題について、研修受託先との連携の仕方についてなどを多面的かつ具体的に教えていただきました。技能研修制度を管理する一つの団体としてどのような取り組みを行っているのか詳しく学ぶことができました。(国際クラス3年 M)

——フェアトレードショップの仕事～”フェア”の対象～

JICA 中部にあるフェアトレードショップ“フェアビーンズ”のスタッフの方にお話を伺いました。

事前にお願した質問の答えを中心にフェアトレード商品の説明をしていただきました。私たちがそれぞれ違う質問をしたにもかかわらず、丁寧に答えいただき、より深く学ぶことができました。

フェアトレード商品の中には、発展途上国で作られた商品や材料だけでなく、国内の障害者施設で作られたものもあり、“フェアトレード商品＝発展途上国の材料や製品”だけではないことを知りました。どの立場の人に対してもフェアであることがフェアトレードであるという事を教えていただきました。(国際クラス3年 O・Y・Y)

